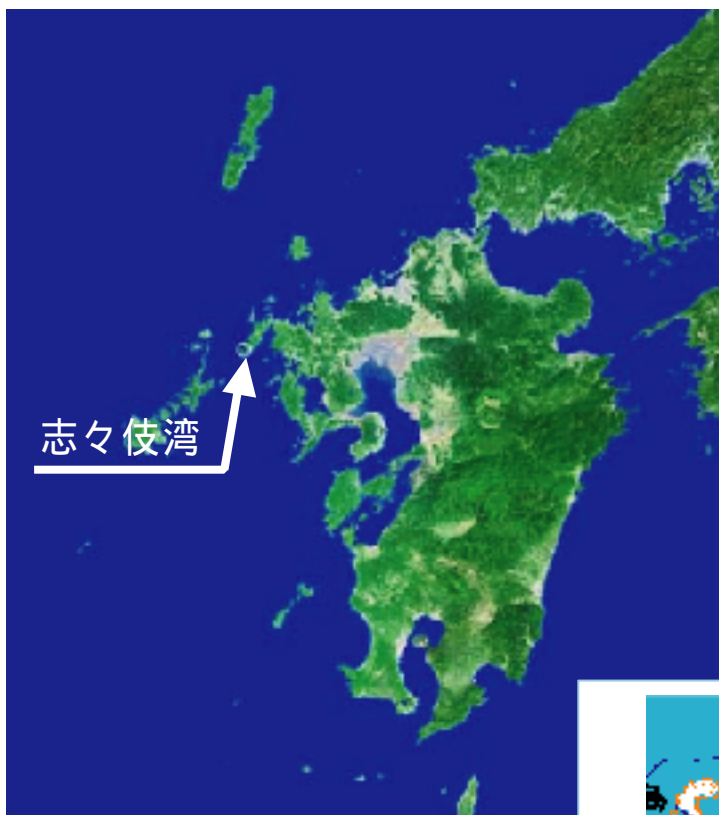


海域の概要

本湾は、平戸島の最南端に位置する湾で、三方を山に囲まれ、西部が外海に開けています。近海を北上する対馬暖流の恵みを受けて、ヒラメやタイの漁獲量が多くなっています。



Specification

諸元

湾口幅：1.74 km

面積：7 km²

湾内最大水深：2.1 m

湾口最大水深：2.1 m

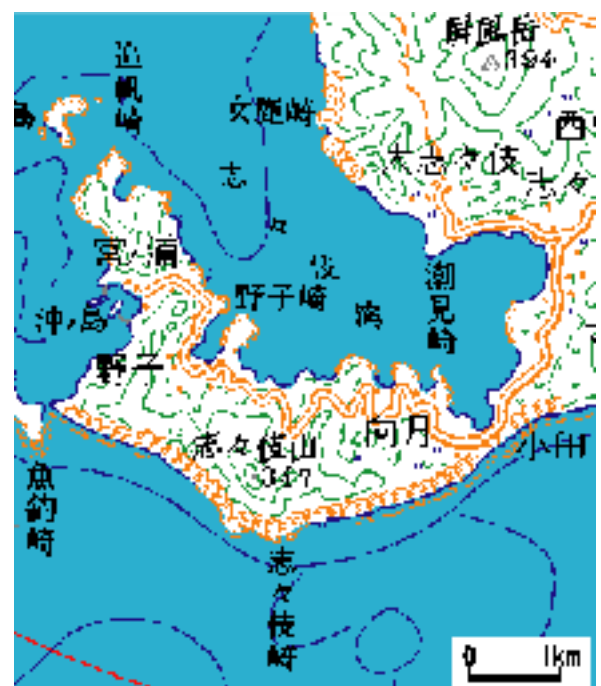
閉鎖度指標：1.52

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

長崎県平戸市女鹿鼻と同市象の八ナを結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

湾口を東シナ海に開いている湾で、沖合を対馬暖流が北上しています。気候は太平洋岸気候区に属しており、比較的温暖な海域です。

志々伎湾の水深は、湾奥部で10m以浅であり、大きな流入河川もなく外海に面し潮通しも良いことから、水質は概ね良好です。

底質は、海岸線付近は岩礁で、それ以外は湾口部から湾奥に入るに従い、貝殻混じりの粗砂から細砂に変化しています。

自然

志々伎湾は、長崎県平戸島の西岸南端近くにあり、北西に向かって開口する小さな湾で西海国立公園内に位置しています。

湾内には、岸沿いの岩礁にガラモ場が分布するほか、湾奥の志々伎、田ノ浦、船越、野子崎周辺にはアマモ場がみられます。

魚類は年間を通じて200種以上がみられ、湾口部ではメイタガレイ、カナガシラなど、湾中央部ではタマガンゾウビラメ、ユカタハゼなど、湾奥部にはマダイ、チダイ、サビハゼ、ヒメジなどが多くみられます。

志々伎湾の北の沖合には阿値賀島があり、天然記念物のカラスバトやミサゴ、アマツバメ等が繁殖し、また、オオミズナギドリが1000羽以上繁殖するなど海鳥の巣窟となっています。

島周囲は数10mの柱状節理の断崖を形成し、亜熱帯植物のピロ - の自然群落がみられます。

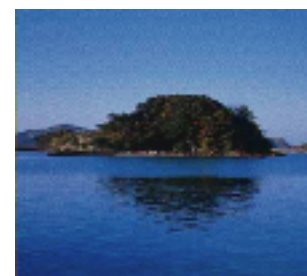


阿値賀島

文化歴史

湾岸の野子付近には「地の宮・沖の宮」があります。この成り立ちは、3世紀初頭、西海警備のため駐留された十域別王が上宮・中宮・地の宮・沖の宮で形成される志々伎神社に祀られたのが所以です。

以後、志々伎・宮の浦は聖地とされ、人手が入ることなく自然が残されています。



地の宮・沖の宮

産業

平戸市は豊富な水産資源に恵まれた漁業が盛んで、そのほか水産加工業、建設業、観光業が中心となっています。

市内の漁業は、イカ釣り、採貝採藻、一本釣り、刺網、延縄、五智網などが中心で、志々伎地区では、刺網の占める割合が高いほか、ブリ、ヒラメの養殖が行われています。志々伎湾では、人工種苗の保護育成を図るための自然石の投石が行われ、アワビ等の根付けを行っています。

観光業では、古くからの海上交流の拠点であったなごりである文化財を核としていて、主な観光資源は北部の市街地に集中しています。湾周辺では志々伎神社跡、景德天皇行官跡、じゃがたらお春博物館などがあります。